

■2011年7月15日(金) エルンストハッペル・シュタディオン ■観衆4128名
 ■19:00開始 21:20終了 ■天候=快晴 20度 ■主審=ハンス・ヘニング(ドイツ連盟)

メキシコ	0	7	0	7=14
日本	0	10	7	0=17

【得点経過】

2Q 05:00	日本	TD	高田15ヤードラン(青木キック)	0-7
04:48	メキシコ	TD	ヴィアモンテス82ヤードKOR(マルトス・キック)	7-7
00:35	日本	FG	青木23ヤードキック	7-10
3Q 08:39	日本	TD	高田-前田19ヤードパス(青木キック)	7-17
4Q 03:54	メキシコ	TD	ペレツ-サラザ-10ヤードパス(マルトス・キック)	14-17

【チーム記録】

	メキシコ	日本
得点	14	17
第1ダウン	16	15
ラッシュ	24-110	22-58
パッシング	189	195
回数-成功-INT	24-18-1	27-19-0
総攻撃獲得距離	50-299	49-253
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン	0-0	2-14
キックオフリターン	4-140	3-87
インターセプトリターン	0-0	1-21
パント回数-平均	3-36.3	4-34.5
ファンブル-ロスト	1-0	0-0
反則-罰退距離	9-92	5-54
ボール所要時間	22分12秒	25分48秒
第3ダウン効率	11回中5回	11回中4回
第4ダウン効率	1回中1回	1回中1回
レッドゾーンスコア効率	1回中1回	4回中3回

メキシコ代表スターティングメンバー

[攻撃]

QB	4	ロドリゴ・ペレツ
RB	23	ジョナサン・バレラ
RB	44	ヨアン-カルロス・カステイロ
WR	8	ホセ-アントニオ・アルフォンソ
WR	10	エリック・ドルダン
TE	81	ダニエル・ロダン
OL	70	サンチアゴ・マルトス
OL	61	マリオ・ロドリゲス
OL	55	エドガー・カヴァゾス
OL	66	ノエル・マレノ

OL	58	ユリオ・ナヴァ
K	19	ホセ - カルロス・マルトス
[守備]		
DL	1	マウリシオ・ロペス
DL	77	エヴァラルド・ヴェラズケズ
DL	92	ディエゴ・スサレイ
DL	9	アレアンドロ・ヴァズケス
DL	3	フェルナンド・ロザーノ
LB	56	マヌエル・パディラ
LB	5	ジョルジュ・ヴァルデス
DB	99	ミゲル・ルーナ
DB	28	ラッシーエル・ロペス
DB	11	ルイス・ジャイメス
DB	13	ロベルト・シルヴァ
P	19	ホセ - カルロス・マルトス

日本代表スタートメンバー

[攻撃]			
QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	20	古谷 拓也	オービックシーガルズ
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ
WR	11	前田 直輝	鹿島ディアーズ
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	77	平本 晴久	元アサヒ飲料チャレンジャーズ
K	15	青木 大介	鹿島ディアーズ
[守備]			
DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	53	平井 基之	富士通フロンティアーズ
DL	92	西川 岳志	鹿島ディアーズ
DL	93	紀平 充則	オービックシーガルズ
LB	9	塚田 昌克	オービックシーガルズ
LB	42	牧内 崇志	鹿島ディアーズ
LB	45	鈴木将一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	22	今西 良平	パナソニックインパルス
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	15	青木 大介	鹿島ディアーズ

【記者会見コメント】

◎森清之日本代表ヘッドコーチ

—メキシコに対する印象と勝因は？

「米国との一戦のフィルムを見て、メキシコ攻撃のラインの大きさ、強さに驚いた。RB 勢の能力も凄まじく、我々は何としてもメキシコのランを阻止しなければならなかったが、守備ラインがよく頑張ってくれたと思う」

—この大会に対する印象は？

「決勝進出できずに本当に悔しい思いでいる。しかし、我々はベストを出したと思う。サイズの不利を指摘されることが多かったが、正直言えば自信を持って戦い抜くことはできた」

◎日本代表ゲーム MVP WR 前田直輝（鹿島ディアーズ）

—今日のゲームに対する取り組みは？

「優勝を目指していたが、カナダに敗れて心が折れかかっていた者もいた。それでも昨日、もう一度チーム一丸となって戦い抜くことを誓いあって今日のゲームに臨んだ。その意味でいいゲームができたと思う」

—コンディショニングは厳しかったか？

「参加チームの中で一番小さく、筋力も劣っていたかもしれない。でも身体的条件で劣勢にあったとしても、気持ちでは決して負けてなかった。ハードな日程は覚悟の上だったし、それを言い訳にすることなく準備してきた。その結果として、今日勝つことができた」

◎ラウル・リベラ・サンチェス メキシコ代表ヘッドコーチ

—最後に同点を狙ったロング FG (51 ヤード) は自信があったか？

「我々の K は 60 ヤード FG を決める力を持っているのでトライした。それぞれが全力を尽くしたことに對して誇りに思っている」

—コンディショニングは厳しかったか？

「チームは全力を出し切った。米国とのフィジカルな対戦を通じて 4 人の負傷者を出し、疲労もあってタックルミスが多かったのは残念だった」

◎メキシコ代表 MVP LB マヌエル・パディラ

—日本の攻撃に対する印象は？

「ゲームの統計は関係ない。しかし、数多くの反則は反省せねばならない。ゲームプランを忠実に実践した日本に対し、我々守備も頑張ったと思うが及ばなかった。日本の QB (高田) が、あれだけ走ってくるとは思っていなかった」